

SDGs～持続可能な取組～

16 平和と公正を
すべての人に



大正エイサー2021～沖縄の心をみんなに～

御所市立大正小学校

4年

総合的な学習の時間

めあて

沖縄戦の歴史を学び、沖縄戦で傷ついた心を癒したのが音楽やエイサーであることを知り、エイサーを表現することを通して、沖縄の心を見ている人に伝えようとする

【沖縄戦の学習】

2学期に入り、総合的な学習の時間では沖縄戦についての学習を始めました。はじめに「島唄」の歌詞の意味を考えました。歌詞には、沖縄戦での人々が傷ついていたこと、平和への思いなどが歌われていることに気付きました。次に、沖縄で起きた地上戦の学習を進めていきました。

朝日新聞の沖縄戦を特集した記事を活用したり、映画「かんからさんしん」を視聴したりすることで、沖縄で起きた戦争の悲惨さを学ぶとともに、アメリカ軍基地が今も沖縄には多く残っていることを学びました。



【沖縄の方から学ぶ】

学習をしている中で、子どもたちから出てきた疑問を基に、実際に沖縄に住んでいる方の話を聞くことになりました。基地の近くに住んでいる介護施設で働く方に話を聞くことで、人々がどんな思いをもって沖縄戦を生き抜いてきたかや、基地の近くに住むことにはどんな苦労があるのかをお話していただきました。また、沖縄の地上戦が終わったあとに「音楽」が沖縄の人々の心を癒やしたということを教えていただき、今も残る「エイサー」

についても教えていただきました。

【大正エイサー2021～沖縄の心をみんなに～】

沖縄の方からエイサーについて教わった後、そのエイサーを運動会の表現種目として披露することになりました。「沖縄の人々の思いを見ている人に届けよう」という思いをもち、子どもたちは練習に励みました。また、エイサーに詳しい人として、もう一人の沖縄の方の話を聞く機会をもちました。エイサーにはどんな意味が込められているのかや、沖縄の気候など、子どもたちが興味をもったことについて、いろいろと聞くことができました。そのような取り組みを通して、運動会では子どもたちの気持ちがこもった表現運動をすることができました。



【児童の感想】

エイサーを踊ることになったのは、沖縄の勉強がきっかけです。沖縄の方の話を聞き、すごく気持ちが分かりました。伝えたいことが分かりました。沖縄の歌詞には気持ちが込められているので、わたしは沖縄の曲が大好きです。沖縄のことをみんなに知ってもらいたいです。